

# 農林高等学校等における就農・就業に向けた講演会を開催しました

No.7



【農林水産部】

農林高等学校、農業大学校などにおいて、非農家出身の生徒（学生）が増加する中、卒業後の就農・就業を促進するためには、農業を魅力とやりがいのある産業として認識し、関心を深めていたことが重要です。

このため、沖縄総合事務局農林水産部経営課では、農林高等学校、農業大学校などにおいて、実際に県内で6次産業化、※GAP、農業女子、スマート農業の活動に取り組んでいる先進的農業者や事業者の取組を知ることで、生徒（学生）の農業に対する関心を高め、将来の就農意欲の向上につなげることを目的として講演会を開催しています。

※GAP (Good Agricultural Practice)

とは、農業において食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組をいいます。



伊盛米俊氏

令和元年9月27日に沖縄県立北部農林高等学校、10月7日に沖縄県立南部農林高等学校において、農業生産法人有限会社伊盛牧場の伊盛

米俊氏から、石垣島での酪農経営、自社牛乳や地元農産物を活かしたジェラ

## 『6次産業化をテーマとした講演会』



佐藤千晴氏

令和元年11月8日に沖縄県立宮古総合実業高等学校において、農業者の

農業生産法人有限会社伊盛牧場の伊盛米俊氏に、自らが歩んできた農業の取組について講演していただきました。

当部では、今後も青年層の新規就農・就業を促進する取組を積極的に推進していきます。

農林水産部経営課

098-866-1628



講演会の様子（南部農林高等学校）



遠藤健次氏



小田哲也氏



比屋根和弘氏

ら、農業高校及び東京農業大学在学中の学生が、農業に対する興味や関心を高め、農業の魅力を理解する機会として、農業高校等における自らの様々な経験や実績、女性ならではの感性を活かしたイチゴ観光農園でのプロジェクトの取組などについて講演いただきました。

生徒達から

トの加工・製造・販売への取組について講演いただきました。

オンラインな酪農経営を目指す取組やジエラートにかける想いに、生徒達からは、「牛1頭から始めた農業が様々なアイデアにより発展することがすごい」、「苦労の連続だが、あきらめずに続けることにより自分の農業ができると思う」などの感想がありました。

は、「農業に対する熱意や楽しさが変わった」、「農業＝男子というイメージが変わり、農業女子はかっこいいと思った」などの感想がありました。

その他の農林高等学校などでは、スイートフード久米島株式会社の比屋根和弘氏、株式会社みやぎ農園の小田哲也氏、遠藤康一郎氏、遠藤健次氏に、自らが歩んできた農業の取組について講演していただきました。

当部では、今後も青年層の新規就農・就業を促進する取組を積極的に推進していきます。